

世界各地で異常気象が頻発。50年後にはホッキョクグマが3分の1に減る可能性も…。また、様々な熱帯性の感染症も拡大しつつあります。関係ないではすまされない地球の温暖化。

地球温暖化の影響①

(世界編②)

異常気象の頻発

●スペイン・ポルトガル 6～7月

ヨーロッパ有数の避暑地 7月
スペインでは6～7月に無霜になり日人が夏に
スペインとポルトガルでは森林火災が多発し、
それぞれ4月、10月5000ヘクタールの森林が
焼失。ルーマニアマケドニアなどで7月異常
早に無霜となり、50人以上が死亡。



●中国西部・チベット 9～11月

54年ぶりの干ばつが異常気象、江蘇省などに暴
雪から集中を繰り返す。約355万ヘクタールの
耕地が被害を受け、約710万人の飲み水が
不足し、約400万頭の家畜への水の確保が
困難な状況となった。



●アラスカ 6～9月

アラスカでは過去最悪の
森林火災となり、6月
以降、約250万ヘクタ
ルが被害。



●エチオピア・アフリカ南部

～2月
エチオピアでは干ばつのため
約700万人以上が食糧不足
また、モザンビーク・ジンバブ
エなどで4億5千万人、東アフリ
カが食糧不足に陥り約60万人が
食糧不足に陥らされた。



●インド・バングラデシュ・ネパール 6～10月

インド東部・バングラデシュ・ネパールなどで46～7月に、またインド西部で
6.7月下旬から8月上旬に、モンスーンによる大雨に見舞われ、あわせて
2000人以上が死亡し、ネパールの被害者数は約200万ヘクタール、イ
ンド東部で450万トンの大雨による被害が発生。10月上旬にはインド東
部などで洪水が続き、約100万人が被害を受けた。

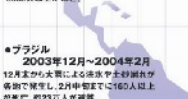
●南アジア 6～10月

日本では6月から10月にかけて、これまでの
記録の大規模な台風となる610個の台風
が上陸し、死者・行方不明者は200人以上
上、避難者も、中国東部でも、5～9月
に台風やシンスーの大規模な台風による
被害が相次ぎ、死者・行方不明者は
400人以上、台湾で6.7月、8月、10月に
それぞれ台風が襲来し、死者・行方不明
者はあわせて60人以上。



●米東南部・カリブ海諸国 8～9月

8月にハリケーン(チーリー)が米東アフリカ半島
を通過し、暴風で23人が死亡、1万2000人の家屋
が倒壊。約8万戸が避難。9月にもハリケーン「フ
ランシス」「アイビー」「ダン」がそれぞれカリブ
海諸国を通過し、米東南部に上陸、ハイチを中心に
3000人以上が被害。



●ブラジル

2003年12月～2004年2月
12月より大雨による洪水や土砂崩れが
各地で発生し、2月中旬までに160人以上
が死亡、約23万人が被害。



出典:全国地球温暖化防止活動推進センター(JOCORON)

温暖化によって影響を受けるとされる感染症

<間接干涉>

媒介するもの	感染経路	感染症の種類
媒介動物	蚊、ダニ げっ歯類	日本脳炎、マラリア、デング熱、ウエストナイル熱、リフトバレー熱 ダニ媒介性脳炎、ハンタウイルス肺炎候群
環境	水系、土壌汚染	下痢症(コレラ等)、炭疽

トピックス

50年後には、ホッキョクグマが3分の1に減る可能性も…

アメリカ地質調査所(USGS:U.S.Geological Survey)は、地球温暖化により、北極海の海水の現象が予測どおりに進むと、50年以内にホッキョクグマは3分の1に減る可能性があるとの推計を発表しました。ホッキョクグマは、アザラシを海氷の上で捕らえるため、海氷の減少とホッキョクグマの生存と健康は直接関係していると分析。温暖化の進行で、今世紀半ばまでにホッキョクグマの生息に適した場所が繁殖と採食に重要な時期である夏場において42%失われると予測しています。